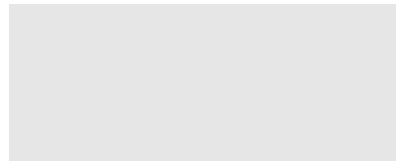


測定結果の見かた



○○○○○○○
○○○○年○○月○○日(○) ○○:○○

AGESスコア
0.44 a.u.

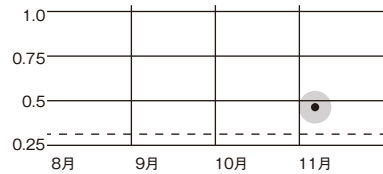
評価

B 😊

同年代ランキング

30位/100人中

■ AGESスコア履歴 ■



次回測定時、装置に接続されている読み取り機にかざすとあなたのAGES変化を簡単に管理できます▼



見本

適切なカラダ管理のために、
継続した測定をおすすめします。

測定の目安: 1~2週間に1回

AGESスコア

AGESの蓄積レベルを表します。AGESの蓄積が多いほど、スコアは高く、蓄積が少ないほど、スコアは低くなります。

評価

同年代と比較して、あなたの蓄積レベルを評価します。



ランキング

同年代の(100人)中で、あなたのスコアが何位に相当するかを表します。

AGESスコアが低いほど順位が高くなります。

※独自に臨床研究で収集した1,000人程度のデータベースをもとに、統計的な推定により5段階評価、および各年代を100人と仮定して1~100位の順位を目安として表示しています。

この測定機は、医療機器ではありません。

測定数値は、健康的な生活をおこなうためのあくまで目安であり、疾患の有無を表すものではありません。



SHIMADZU
Excellence in Science

新しい生活習慣のバロメーター

AGES⁺
エージーイーケア CARE

体内AGESを計って
「あなたのカラダ」を
今すぐチェック



AGEsってなに？

食事などで過剰に摂取した糖とヒトのカラダを主に構成しているタンパク質が結びつくことで体内に生成される老化物質のひとつで、最終糖化産物(Advanced Glycation Endproducts)^{※1}と呼ばれています。加齢によっても生成されるもので、誰のカラダの中にも存在します。



カラダに影響があるってホント？

ヒトの老化現象や健康に関わる物質として、近年研究が進んでいます。肌、血管、骨などは主に「コラーゲン」というタンパク質からできています。これが糖と結びついて糖化が進むと、本来の働きができなくなり、肌のしわやたるみ、骨や血管の強さを保つ働きを邪魔してしまうと言われています。



しわ、たるみ、くすみの原因^{※2}

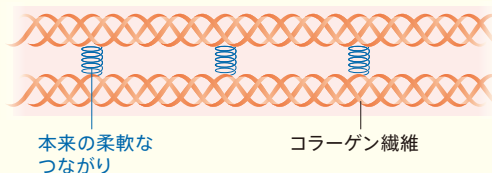
骨や血管の強さを保つはたらきを阻害

AGEs蓄積の仕組み

コラーゲンは本来、ばねのような柔らかい結びつきによって弾力性を保っています。しかし、AGEsの蓄積が進むと、コラーゲン繊維が結ばれ固くもろくなり、弾力性が低下。その結果、カラダの機能に様々な変化を及ぼしてしまいます。

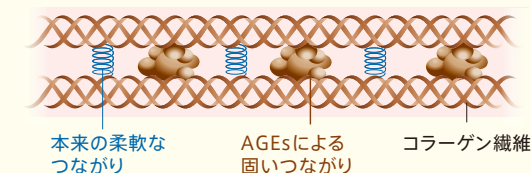
コラーゲン(肌、骨など)が弾力を保っている状態

ばねのような柔らかい結びつきによって弾力性を保っています



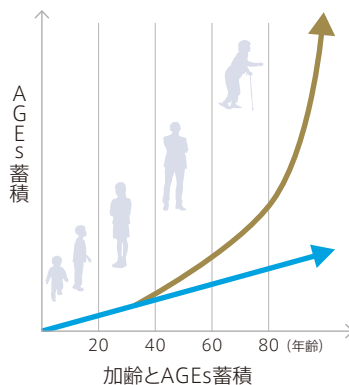
AGEsの蓄積によって弾力性が低下した状態

AGEsの蓄積が進むと、コラーゲン繊維が結ばれ、固くもろくなり、弾力性が低下します



なぜ今、AGEsが注目されているの？

健康的な生活を送っている人は、加齢にともなうAGEsの蓄積はそれほど多くはありません。しかし、不適切な食生活、運動習慣や、睡眠不足などにより、AGEsの体内での蓄積は増加します^{※3-6}。このため、AGEsは生体内における「生活習慣のバイオマーカー」^{※7}とされ、健康や美容業界で注目されているAGEsスコアは、みなさんの「生活習慣の成績表」といえます。



生活習慣の乱れにつながる

- 暴飲暴食
- 運動不足
- 睡眠の質の低下

正しい生活習慣を送るための

- バランスのいい食事
- 適度な運動
- 良質な睡眠

AGEsを減らすにはどうすれば？

AGEsの蓄積レベルは、適度な運動やバランスの良い食生活、眠る前にスマホを見ないといった正しい睡眠習慣、ストレスを溜めないメンタルケアといった生活習慣の改善により低減させることができます。

POINT



ウォーキング程度の運動習慣を身につけましょう。

糖質を摂る前に、できる限り「野菜、海藻」を食べましょう。



野菜から!

糖質の過剰な摂取に気を付けましょう。



※1 Nagai R, et al., Biochem Soc Trans. 31,1438-1440(2003). ※2 Diabetologia. 2006 Oct;49(10):2488-98. ※3 Nagai R, et al., Clinician, vol.98, p.110(1998) ※4 Buongiorno AM, et al., J Endocrinol Invest.31,558-562 (2008). ※5 Beisswenger P J, et al., J Clin Invest.92, 212-217(1993). ※6 Sakata N, et al., Atherosclerosis. 142, 67-77 (1999). ※7 Nagai R, et al., J Clin Biochem Nutr. 55,1-6(2014).